

提 言 書

平成22年3月24日提出

田沢湖地域審議会委員

会 長	梁 田 良 雄
副会長	井 上 幸 子
委 員	藤 村 正 喜
同	高 橋 正 男
同	千 葉 正 登
同	高 橋 正 治
同	佐 藤 和 志
同	千 葉 なみ子
同	齋 藤 英 明
同	今 郁 子
同	倉 橋 重 基
同	真 崎 久仁子
同	高 橋 吉 幸

## 1. はじめに

本審議会は第2期として平成20年4月1日に設置されました。以来2ヵ年にわたり、田沢湖地域のさらなる発展・振興の道筋を市民の視点で検討・協議してきました。

田沢湖地域は長い間、米作を中心とした農業と豊かな山林に恵まれた林業を基幹産業としてきた地域です。昭和30年代半ばからは、田沢湖に加え高原地区の観光開発を進め、観光立町を目指してきました。今日では玉川温泉をはじめ乳頭温泉郷や田沢湖高原温泉郷などの豊富な温泉資源と田沢湖、駒ヶ岳そして抱返り溪谷など四季折々に美しい景色を醸し出す自然に恵まれた秋田を代表する観光地になりました。

しかしながら、林業の衰退や米価の低迷、生産調整などにより、第1次産業を基幹とする地域には、厳しい時代になっています。また、観光産業も不況の影響を大きく受けています。特に、田沢湖畔を訪れる観光客も頭打ちとなっていることから、新たな施策が求められています。

こうした現況を踏まえ、本審議会は「農業と観光の振興について」を提言するものです。

## 2. テーマ

前述の状況に加え、少子高齢化が進むこの地域が活力を失うことなく、次世代に向けての展望を開くには、「農業と観光の連携」による地域産業の振興が不可欠と考えます。「農業と観光の連携」を根底に据え、最初に地域の課題を探る作業に着手しました。検討・協議を進める中、抽象的な課題や、より深く踏み込んだ課題など温度差が大きかったものの、この地域にとって観光産業が農業と連携することによる相乗効果が大きく期待できるものと確信しました。

## 3. 課題と提言

### 1) 救急指定病院について

地域医療は住民の安心・安全の確保の最大の課題です。テーマの一つである観光の面からも次の点が懸念されます。

- ・直近の救急指定病院への搬送に時間を要する。
- ・観光地として誘客を図るにはマイナスの要因となる。
- ・現在開催されている各種イベントや行事に影響が出ている。
- ・今後、大規模なスポーツ大会等の誘致に不利となる。

本課題については、具体的な提言までは及びませんでしたが、一日も早く実現されるよう切望します。

### 2) 二次アクセスについて

秋田新幹線の開通により首都圏からのアクセスが整備された当地域は、秋田県の東の玄関口でもあります。しかしながら、この地域の交通体制は十分とはいえず、観光地を結ぶバス路線の整備が特に望まれます。また、生活バス路線も存続の危機に直面

して、地域の交通弱者対策も併せて整備していく必要があります。

- ・個人、小グループ、高齢者等の旅行者の交通手段の確保。
- ・観光地を結ぶ交通体系の確立。
- ・交通情報の効果的な広報手段の確立。
- ・生活バス路線の確保（地域の新たな交通体制の確立）

#### ○提言

観光客のニーズを調査し、これに基づく施策の実施を求めます。観光客のニーズは関連業者のみではなく、住民に広く周知することも観光地としてのグレードを高めるものと考えます。現況では季節限定の交通システムやシャトルバスあるいは乗り合いタクシーなどを観光客に提供することが必要と考えます。また、一般的ですが、立看板や車内案内などの広報媒体の活用による効果も見逃せません。特に、初めての観光客には特段の情報を提供できるシステム(サービス)が必要です。

具体的には、角館の「蔵」と「フォレイク」の連携による情報提供やキャッチコピーの創作が考えられます。

1)、2)は基本的な整備についての課題となりますが、さらに踏み込んで以下の課題があげられました。

#### 3) 遊歩道の整備について

滞在型の観光客の誘客や、この地域により深く親しんでいただくためにも遊歩道の整備が望まれます。

田沢湖畔：サイクリングやジョキング、マラソンなどの愛好家が湖畔をコースとして利用するケースが増えています。こうしたニーズに応え、安全を確保するためにも遊歩道の整備は欠かせません。また、田沢湖を単に車で周回するのみであった観光客の滞在時間を伸ばす効果も期待できます。

抱返り溪谷：紅葉シーズンに限らず春や夏に訪れる観光客が多くなり、崩落による危険箇所の解消が緊急の課題です。現在、県で整備を進めていますが、地元の意見を反映させた整備を望みます。

玉川沿岸：これまで論じられることは少なかったのですが、玉川沿い(山居～造道)に散策できる環境を整えば、新たな観光資源となります。多くの観光地が生保内の中心部から離れているため、広い範囲での観光客との触れ合いや経済的波及効果もなかなか期待できないのが現状です。中心部から田沢湖にいたる散策コースの整備は、新たな観光資源の拡大につながる効果が期待できます。

#### ○提言

県への積極的な要望と継続的な働きかけをし、早期の実現を目指す。

田沢湖畔については一周コースが望ましいが、ビューポイントを絞った整備(春山～県民の森～潟前などのコース)も考えられます。また、湖畔を花いっぱいにと言う提言

もありました。コスモスロードや桜ロードの提言です。ただ、湖畔には共生木群の特異で貴重な生態系がありますので、こうした自然には十分配慮した整備が望まれます。

自然への配慮と言う点ではウッドチップによる舗装などが考えられますし、対処的な工夫としては、側溝に蓋をするなどの対応が考えられます。

一部少数意見として抱返りについては遊歩道が必要だが、田沢湖畔は自然のままがいいという意見がありました。

#### 4) 国鱒資料館について

田沢湖畔には郷土史料館がありますが、立地条件が悪く入館者の少ない状況が続いています。資料館としての機能も乏しく、その存在意義が問われています。

一方、田沢湖畔の観光施設として、休憩施設が整っていない現実もあります。特に、雨天時には観光客が素通りすることにもなり、観光地の魅力が半減しています。この対策として、一昨年に国登録記念物となった「クニマス」をメインとした国鱒資料館を建設し、併せて休憩機能を持たせることにより田沢湖畔の誘客を図るものです。

##### ○提言

本項目自体が提言となっていますが、具体的なイメージとしては、世界で唯一の魚類であった「クニマス」をメインテーマにその歴史や田沢湖の漁業を具現化した展示等により資料館機能の充実を図り、休憩施設ではコーヒーや岩魚の塩焼き等のサービスが提供できる施設が望まれます。

当面は「クニマス」の情報が市民の目・耳に情報が届くよう、田沢湖駅の2階に展示するなどの方法が考えられます。

#### 5) 総合体育館について

旧田沢湖町のそれぞれの地区には、市民体育館(生保内、神代、田沢)があり、恵まれた環境にあり、広く市民に利用されています。加えて、旧田沢小学校体育館が田沢交流センターとして市民の利便性もさらに高まっています。

しかしながら、田沢交流センターのほかには暖房設備も無く、広さ、機能が不十分であり、屋内スポーツの各種大会を招致できる状況ではありません。スポーツ大会の招致により交流人口の増加が見込めますし、観光客の誘致にもつながります。

現在の市民体育館は3館とも老朽化が著しく、建て替えが望まれています。

この機に総合体育館の建設の検討を望むものです。

##### ○提言

本項も4)と同様に項目自体が提言となっていますが、具体的な進め方としては、各地域から推進員を募り検討委員会等の組織を立ち上げ、総合体育館の構想の検討に入る。

利用者の意見を聞き、スポーツだけでなく多彩な用途で活用できる方向も必要です。完成後は「田沢湖」のブランド名を生かし、全国にアピールしていくことが肝要と考えます。

なお、少数意見としては、地域に見合った小規模でも利便性の高い体育館を目指すという意見もありました。

## 6) 調理人と農業従事者との交流について

農業に関する項目はこの一項目のみですが、深く踏み込んで論議されたものです。

これまで、地産地消やグリーンツーリズムによる農業と観光が連携し、観光客の誘致を図ってきました。今日、一部地域にその効果がみられるものの、この地域全体に波及しているとは言えないのが現状です。

これまでは農協関連団体と消費者関連団体のように団体での連携に主眼が置かれて進められてきたことに、その効果が上がらないのではと疑問がもたれます。新たな視点から、もっと現場に近いホテルやレストラン等の調理人と生産者が直接交流することにより、その効果を高めるという考え方です。

「農業」と「観光」の連携による地域経済への相乗効果を期待し、次の提言をします。

### ○提言

従来の取組みを見直し、農業従事者には調理現場で求めている食材を、調理人には地場産の作物を知ってもらうために、直接交流する場を設けるよう提言します。

実施に当たっては、市の施策として、行政が指導、橋渡しを担うことが必要となります。これにより生産者（農業従事者）と消費者（調理人）が生産計画を共に策定できますし、地産地消を加速的に進めることができます。観光産業の需要がこの地域の多角的な農業経営への道を促します。

具体的な取組みとしては、生産者（農業従事者）と消費者（調理人）による協議会等を組織し、食材と料理の展示会や直接会食するなどの実践的な活動が考えられます。

## 7) イベントの見直しについて

旧田沢湖町時代から、生保内を中心に町興しの一環としてさまざまなイベントが開催されてきました。春の「生保内公園つつじ祭り」に始まり、冬の「田沢湖高原雪祭り」に至るまで、それぞれの季節に開催されています。その多くが実行委員会形式がとられているものの、市から財政面や人的な面で何らかの支援を受けています。しかしながら、今、イベントの意義、在り方が問われています。「市民との一体感が薄れている」、「マンネリ化している」などの声があります。市の支援の縮小や、協力者の高齢化もこれらの課題の遠因となっています。

また、かつて開催されていたイベントの中には「たまがわ川下り」や「マウンテンバイク」など中止や休止になったものもあります。

一方では、婦人会や田沢地区のチャリティーショーなどのように、団体や地域が主体となって主催者と参加者が一体感を共有し、盛会に行われているものもあります。両者の大きな差は、携わる者の意識(主体性)の違いによるものと考えられます。

観光資源の視点からイベントを見てみると、資源としての価値が高いものも多く

あります。また、資源の発掘の面からは、ここ数年、駅前広場で開催している「生保内節盆踊り大会」などは、潜在的な価値を持っているといえます。観光客にとって、下車した目前で、伝統芸能を直接体験できる、交通の利便性に最も優れた盆踊りと成り得ます。

#### ○提言

イベントの目的、ねらいを再検討し、現在の社会情勢に照らし、既に目的を達成したものはないかなど再評価が必要と考えます。日程の見直しを行うことで、市民参加型のイベントについては集中開催が可能となり、相乗効果も期待できます。場合によっては、複数のイベントを合体することもできます。

その上で、広く協力者を募り、周知を徹底させるのが取り組み方の基本となります。

具体的な取組みとして、地域の役員等でイベント遂行のプロジェクトを立ち上げ、市民によるイベントと言う意識を醸成できます。また、このことを通じ人材育成も図れます。

日程の周知についても、日常的に家庭で活用されているゴミカレンダーに載せるのも有効な手段となります。

#### 4. まとめ

本提言にあたって、当審議会では2ヵ年6回の会議のほか、委員自ら勉強会を開催して取りまとめてきました。

課題と提言に取り上げた7項目について、1)、2)は優先順位の高い事項です。第1に安全、安心を確保し、次に観光地としての基盤を整えることが必要となります。3)～7)については優先順位を設けたものではありません。

2テーマでも述べましたが、課題によっては、より具体的に踏み込んだものから抽象的なものに留まってしまったものもあります。当審議会としては、提言を項目で示すことで、市の総合計画の策定や具体的な施策のテーブルに上げていただくことを希望するものです。

農業と観光の連携することにより仙北市の二つの基幹産業を確立し、経済への波及効果が地域の元気を呼び戻すことを確信しています。

自然との調和を理念に、伝統・文化の継承を図りながら、地域の発展を期待するものです。